

かいおおい 貝覆

蛤貝 内部に彩色 江戸時代後期 松井文庫所蔵

かいおおい
貝覆は、ペアになる貝を多く見つけてとった者が勝ちという遊びです。

かいがら
貝殻をふたつに分け、片方を地貝(右貝ともいう)、もう一方を出貝(左貝ともいう)と呼びます。地貝はあらかじめ伏せて並べておき、出貝をかいおけ
貝桶の中から一つずつ出して、それに合う地貝を見つけていきます。

同じ貝には、裏に同じ絵(「源氏物語」の場面や花鳥図など)が描いてあるので、絵が同じものを合わせる遊びと思いがちですが、実はそうではありません。貝覆は、貝の形や貝殻の文様で、同じ貝かどうかを判断します。確かに、貝によってその形や文様はずいぶん多様であることに気づかされます。



貝の裏側(源氏物語や花鳥図が書かれている)



貝の形や文様で選ぶ(よくみると、一つずつ違う)

ペアになる貝は一組しかなく、決して他の貝とは合わないことから、貝覆は「一生添い遂げます」という意味で、こんれいちょうど
婚礼調度の第一にあげられます。

婚礼の際は、かいおけ
貝桶という入れ物に納めて、婚礼行列の先頭に立って運ばれます。

松井文庫には、現在2組の貝桶と、それに付属する貝覆が2組伝えられています。



貝桶一対(七宝繫折崩桐紋蒔絵) 松井文庫所蔵